

## 九十九里浜でのシロチドリ*Charadrius alexandrinus* 調査と保全

守屋年史（バードリサーチ）

日本全国でシロチドリは繁殖し、本州以南では留鳥である（日本鳥学会 2012）。一昔前は、砂浜などに生息する普通種とされていたが近年減少傾向にある。環境省レッドリストでは絶滅危惧 II 類として掲載され（環境省自然環境局野生生物課 2015）、千葉県（千葉県 2011）、三重県（三重県 2015）などのように県のレッドリストにおいて絶滅危惧 I 類に指定している県もある。また、モニタリングサイト1000シギ・チドリ類調査の近年のとりまとめでは、春期、秋期、冬期ともに減少傾向が継続的に続いている（環境省生物多様性センター 2013）。

私は、モニタリングサイト1000シギ・チドリ類調査の全国モニタリングに携わっており、シロチドリの窮状を認識し危惧していた。そこで2015年より千葉県九十九里浜において、山階鳥類研究所の茂田良光氏、行徳野鳥観察舎友の会の佐藤達夫氏などのバンダーの方と一緒にシロチドリの調査を開始している。活動の最終的な目標は、地域全体でシロチドリや砂浜の自然環境が保全されることである。

現在実施している調査テーマは、シロチドリの減少要因を突き止めて、生息数の上昇に繋げることである。調査項目としては、生息環境の選択、死亡要因の追跡、繁殖生態、越冬分布などを実施しており、詳細な行動観察、個体の追跡においてバッティング技術は欠かせない。また、地域全体で保全を行うためには、地域のステークホルダーにシロチドリのことを知ってもらわなければならない。調査研究におけるバンダーの貢献もさることながら、九十九里浜の自然保護の啓発を行う上でも、バンダーの貢献できることは大きいと考えている。

今回は、九十九里浜でのシロチドリの調査を基礎に、いかに保全活動に発展させていくとしているかを話題提供する